

是川小の環境教育

是川は周知の通り、縄文の里であります。総合的な学習の時間（名称：ゆうゆう是川）では、自ら考え、主体的に問題を解決する児童を育成するために、環境（人・自然・文化）に対して積極的に関わらせ、豊かな感性を養うとともに、郷土に対する誇りと愛着をもたせることを目標とし、「縄文の里」是川の自然・文化に目を向けた環境教育の推進を一つの柱として設定しています。

春



学校田での水稲栽培
校庭のバックネット裏の空き地に作った水田です。夏の間はメダカを繁殖させました。ヤゴなど水棲昆虫の王国になります。

学校農園植え付け
ここで植え付けられた作物は、交流給食会でのせんべい汁やカレーライス作り、老人クラブ交流学習のいもち作りや豆腐作りに生かされます。

さながら「どろんこ祭り」



草刈りでの雑草も畑の肥料にしま



頃巻川水棲生物調べ
ナガレトビケラの幼虫、カワニナ、ウグイ、ウキゴリ、モクズガニなど、今では貴重なきれいな水に生息する生き物が見つかりました。



夏



5年宿泊学習
折爪岳山頂の自然の中で、集団宿泊生活をし、学校や家庭では経験できない体験をさせることで協力、奉仕、自然愛護の心を育てたいということで平成16年度より実施しています。ヒメホタルの群舞も圧巻です。



夏は田んぼの雑草とり



全校なかよし遠足
「郷土の美しい自然、先人の努力にふれ、郷土にほこりと愛着を持たせたい」という願いから、県南を代表する景勝地種差海岸、奥入瀬溪流、そして是川の用水開発に関わる青葉湖を選び、3年サイクルで実施しています。



H17.20種差海岸



縄文土器作り
各学年ごとに縄文学習館のスタッフの方々の支援を受けながら縄文土器のレプリカとして縄文模様の火炎土器や遮光器土器の頭部、板状土偶、縄文プレスレット、合掌土偶等の作品を学校で制作し、乾燥を経て、是川中学校校庭で野焼きします。学校田で収穫した米はこの土器を使って炊飯します。



H18奥入瀬十和田湖



H19青葉湖



冬

豆腐作り
老人クラブとの交流学習では、学校農園で収穫した大豆と宿泊学習で天然塩を作ったさいにとれるにがり、学校田の米を精米した時の米ぬかです。石臼を使って豆腐を作ります。天然の、しかも自分たちの手のかかったもので作る豆腐です。昔ながらの智恵と、できた豆腐のおいしさに感動します。



実りの秋
鎌を使って稲刈り。前年度のわらでしばって「はせがけ」し、天日で乾燥させます。



干し柿作り
是川は柿の里でもあります。11月中旬になると近所の農家の柿をいただき、皮をむいて教室のベランダにつるします。日光と寒風、そして丹念にもむことで渋が抜け、甘い干し柿ができます。

